

校内別室指導支援員の組織的な活用について

不登校児童・生徒の状況

不登校生徒及び不登校傾向の生徒は、全校生徒の約6パーセントであり、各クラスを平均すると、2～3名である。不登校生徒のうち、校内別室指導教室を利用して登校できている生徒は、日によるが最大で10名である。支援員の配置により、指導時間も増え、担任や学年の教員との関わりも増えており、手応えを感じ始めている。

具体的な取組

(1) 校内別室登校記録（生徒記入）

別室へ登校した生徒は、1週間の内容が1枚に記入できるようになっている。校内別室登校記録に登校時間や当日の目標、予定（給食を食べるか）などを記入し、支援員に提出する。支援員は、記入された内容を確認するとともに、必要に応じて担任との面談時間などの調整を行う。

(2) 校内別室登校出席簿（支援員記入）

別室に生徒が登校した内容等を記録する。学級の出席簿と同様に、1時間ごとに①別室で自習する。②教室で授業を受ける。③SCと面談をするなどを選択できるようにしている。



(3) 校内特別支援委員会との連携

毎週1回実施している校内特別支援委員会で、不登校生徒や欠席が増えている生徒を取り上げ、校内別室指導を促すなど、支援についての方向性を確認し、保護者や生徒に担任からアプローチするようにする。また、既に校内別室指導を受けている生徒の情報共有も行う。

(4) 小平市教育支援室との連携

小平市教育支援室（あゆみ教室）に通室している生徒に対して、校内別室指導教室への登校を併用させ、少しでも学校への関わりを増やせるように、あゆみ教室の指導員と連携をしている。週に1日は学校に登校できるようになった生徒もあり、担任と関わる時間も増えた。

成果

別室指導教室を活用できる時間が増えたことで、生徒が登校して居場所の選択肢が増えた。教員は生徒と関わる時間が増え、生徒理解も深まった。また常に別室指導支援員がいることで、担任や学年との連絡調整がしやすくなり、生徒も安心して過ごすことができている。

課題

生徒は、教科の課題に取り組む自習がメインとなるため、より効果的な学習をサポートできる人材が必要である。